

## 数の教育とは

日常生活の練習によっていろいろなことが自分でできるようになり、さらに感覚教育によっていろいろなものをよくとらえ、見、聞き、感じるができるようになった子供たちは、美しく興味深い環境として用意されている算数教具に興味をもってくことは、自然の流れでおこります。

自発的に教具を手にして「これをやってみたい」と言い出します。

たまに「モンテッソーリは、早期教育なのではないですか?子供は、遊ばせるのがいいのではないですか?」という質問をうけます。

モンテッソーリ教育は、算数だけをさせることを目的とした教育ではありません。

算数は、[こどもの自分でやってみたい、自分でできたよ]の多くの活動の中に含まれる一つの単元にすぎません。環境として数の興味を促すモンテッソーリ教具は、教室に配列してありますが、自分でやってみたいと感じた時、数に接します。「数ってたのしいね」が一番大切なことだと感じます。

ところで、みなさんは、お子さんに数をどのように教えているでしょうか。

モンテッソーリでは、数を量として実物をみせながら教えていきます。

単なる数唱ではなく、教具をみせながら、実際に棒が長くなっていたり、ビーズの数が多くなっていったりして子供自身が数を目で見て、持ってみて実感します。

小学校高学年になって、速さや鶴亀算、追い抜き算、面積の計算など抽象的内容(目で直接みることができない内容)が多くを占めてきた時、楽しくそれに対峙していけるかは、幼児期から低学年わたっての数との出会いの仕方に左右されます。

子供の部屋では、モンテッソーリの教具を使って、子供の興味に従って自然に算数の道を開いていけるような教具を用意しています。幼稚園教育要項 領域 「自然」の4にあるような内容に沿っていながらさらに興味のある子供には、発展的な内容まで経験できるよ

うに様々なモンテッソーリ教具が用意されています。「遊びながら楽しく算数への

門を開く」がモットーです。

※次のページに写真があります。





※次のページに写真の続きがあります。



※END